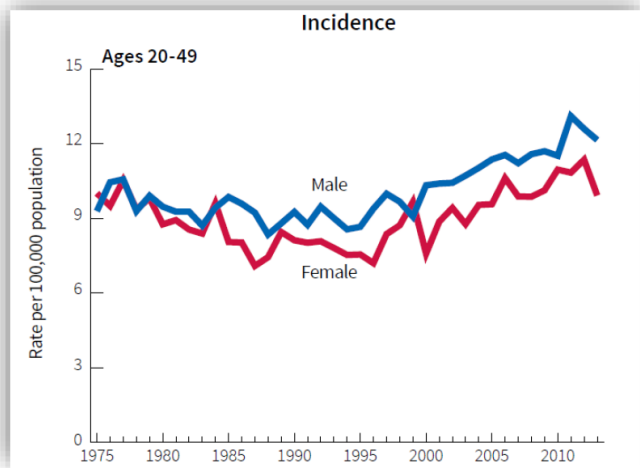


どうして40代から 大腸検査が必要なのか？



American Cancer Society, Facts & Figures 2017-2019.
米国における20-49歳の**大腸**発生数の推移



国立がん研究センターがん対策情報センターより参照

こんにちは、尚視会理事長・消化器内科医の原田です。

欧米では、大腸がんによる死亡数は減少傾向にあります。一方、日本においてはやや高止まりとはなっていますが、大腸がんによる死亡数は増加しています。国立がん研究センターによるデータ(右図)では、大腸がん死亡数は年間**5万人以上**となっておりがん死においては、肺がんに次ぐ**第2位**となっています。**女性**に限って言う**と第一位**です。

また、米国においては**大腸がん死亡数は減少**しているにもかかわらず**若年層(20~49歳)**における**大腸がん発生数は増加**しており若年化の傾向が見られます(左図)。日本においても**若年化の傾向**がみられており**リスクの高い方**に関しては**40代**で一度**大腸内視鏡検査**を受けていただくことが**大事**です。

私たちのクリニックでは**30代・40代**といった若い方が**検査**を受けられることが多いですが、**肥満・糖尿病・運動不足**などの**大腸がん**の**リスク**が高い方では**大腸ポリープ**の**発見率**が高い傾向にあります。大腸ポリープ切除は、大腸がんの**予防**になりますので**リスクの高い方**や**症状のある方**は**積極的に検査**を受けていただくことが**大事**です。



尚視会・理事長
共済病院・内視鏡
センター長
原田英明